

## 多項目自動血球分析装置 XE-2100における白血球分類のメッセージと目視分類の比較検討および日常検査への導入

八戸 雅孝<sup>1)</sup> 川崎 都子<sup>1)</sup> 二田 優子<sup>1)</sup>  
川島 博信<sup>1)</sup> 大久保久美子<sup>1)2)</sup> 松永 彰<sup>1)2)</sup>

<sup>1)</sup> 福岡大学病院臨床検査部

<sup>2)</sup> 福岡大学医学部臨床検査医学講座

要旨：多項目自動血球分析装置 XE-2100における白血球 5 分類検査を，患者検体4690検体について目視分類検査と比較検討した．XE-2100によって正常（IP メッセージ無し）と判定された中の83.4%は目視分類においても異常を認めなかったが，16.6%は何らかの異常が認められた．このうち異型リンパ球，幼若顆粒球が2.5%未満および左方移動を示した検体を除くと，問題とするべき異常を認めた検体は86件（2.3%）であった．また血液疾患の患者を除くと，99.2%は目視分類でも問題がなかった．XE-2100で異常（IP メッセージ有り）と判定された中では，目視分類で343件（34.1%）は異常は認められなかったが，663件（65.9%）は異常を認めた．IP メッセージの目視分類との一致率は異型リンパ球と幼若顆粒球が86.4%，90.5%と高かったが異常リンパ球・リンパ芽球は10.2%，芽球は25.5%，左方移動は33.7%と低かった．目視分類の再検基準に芽球と白血球粒度分布異常の IP メッセージを採用し，その他に白血球数1000/ $\mu$ L 以下，リンパ球 60%以上，単球20%以上，好塩基球 2.5%以上も再検条件に加えた．XE-2100による白血球 5 分類検査導入後，機器分類依頼検体数の増加や，目視分類必要検体数の減少により，全体の目視分類結果報告時間も短縮され，迅速な報告が促進された．

キーワード：多項目自動血球分析装置，白血球 5 分類，IP メッセージ，異常細胞，XE-2100